

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：大学院保健学研究科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
<p>博士前期課程、後期課程とも研究指導体制を強化し、研究の中間段階で発表会を開き、指導教員以外の教員や他の大学院生の質問、コメントを参考に研究の方向を調整、不足したデータを補う、データ解析の方法を変更・追加する、あるいはまとめ方について再検討することによって、自分の研究の目的、意義、独創性を明確に認識できるようにする。これにより、最終論文審査を円滑にするだけでなく、学位論文のレベルアップと研究者としての力量向上を図る。平成23年度から始めているが中間発表まで行っていない大学院生が多いので、この点を改善する。</p>	<p>・看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3分野とも中間発表会を行い、学位審査会は公開方式で行った。発表内容と発表の仕方も向上してきているが、社会人大学院生の場合、指導教員と十分打合せをする時間が取れない場合があった。</p> <p>・看護学分野には保健学科の卒業生3名が入学し、平成25年度も2名が入学する予定である。</p> <p>・助産学コースには8名が合格したが、うち2名が京都大学の大学院に入学手続きをしたため、入学者は6名となった。なお、現在も助産師教育が大学院化されたことを知らない卒業生がいることがわかり、広報活動の拡充が課題として浮かび上がった。</p> <p>・「ケア技術学特論」の履修者は学年進行との関係もあっていなかった。</p> <p>・がん専門看護師、医学物理士とも1名が資格を取得した。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>1)看護学分野で助産学コースを除いて2名以上確保。 2)助産学コースの入学者を8名以上確保。 3)博士前期課程の「ケア技術学特論」の履修生を増やすこと(平成23年度は1名)。 4)がん専門看護師、医学物理士の資格取得者をそれぞれ1名以上出すこと。</p>	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
<p>大学院生の研究レベルを上げることが教員の研究レベル向上にも、今後の保健学研究科における研究レベルの向上にもつながるので、岡山大学医学部保健学科の卒業生を大学院生として受入れ、将来教員になりうる人材を育成する。大学院生の就職支援(研究者としてのキャリア支援を含む)体制を強化する。科学研究費に関しては教員全員が申請することを必須義務とする。</p>	<p>・平成25年度の博士前期課程入学予定者は26名で、助産学コースができたこともあって看護学分野でも50%以上が岡山大学医学部保健学科の卒業生になり、保健学研究科全体としても50%を越えた。</p> <p>・博士後期課程の大学院生の論文数は8編で、うち4編が英文誌に掲載された。</p> <p>・科学研究費の申請率は86.9%、採択率(新規)は22.7%であった。</p> <p>・博士後期課程全体では論文博士を含めて8名が博士の学位を取得した。</p>
<p>保健学研究科博士前期課程に入学する学士の50%以上を岡山大学医学部保健学科の卒業生にすることが第一の目標である。次に、大学院生の論文数、とくに博士後期課程の学生の論文数とインパクトファクターが一番の指標なので、博士後期課程全体で毎年10編以上の論文が掲載され、少なくともその50%が国際雑誌に英文で掲載された原著論文であることが目標である。科学研究費採択率が平均で35%になること。博士の学位取得者を保健学研究科全体で6名以上出すこと。</p>	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
<p>岡山大学が若手研究者の育成を目的として行っている「若手研究者キャリア育成プラン」に登録する学生を確保し、博士取得者が企業等と連携した研究を行ったり、企業・研究所に就職する道を開く。</p>	<p>・1名の博士後期課程の学生が「若手研究者キャリア育成プラン」に登録した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>平成24年度に最低1名は「若手研究者キャリア育成プラン」に登録する学生を確保する。</p>	
【総括記述欄】	
<p>・博士前期課程については、保健学研究科としての目標をほぼ達成できた。しかし、博士後期課程については、博士の学位が取得できない学生が累積しており、今後数年でこれを解消する必要がある。幸い、博士前期課程に保健学科の卒業生が入学してきており、これがさらに増えれば研究レベルが向上し、学位が取得できない大学院生数も減ると期待される。</p>	